

はじめにお読みください

～ FlexLM Floating License 版 ～

1. ツールを使用開始／保守契約更新するにあたって

この度は、弊社より Arm 社製 Keil ソフトウェアツールをご購入いただきありがとうございます。
お客様に最高の組み込みソフトウェア開発ツールを提供することが我々のゴールです。我々はこの目的を達成するために、お客様のソフトウェアエンジニアリングをより容易にするようサポートを行っております。
この「はじめにお読みください」のガイドブックは Keil Development Tool の導入および保守契約更新後の早急な立ち上げを支援します。
ここでは、新しいソフトウェアのインストール方法とより詳細な情報やサポートが必要な際のコンタクト方法についてお知らせします。

2. 製品のシリアル番号

KEIL ソフトウェアツールを使用するためには、PSN と呼ばれる製品のシリアル番号が必要となります。

PSN は、納品された **シリアル発行証明書** (図 1) あるいは **Certificate of Authenticity** (図 2) に、「シリアルナンバー:」、「Serial Number:」あるいは「PSN:」で記載されております。



図1. シリアル発行証明書

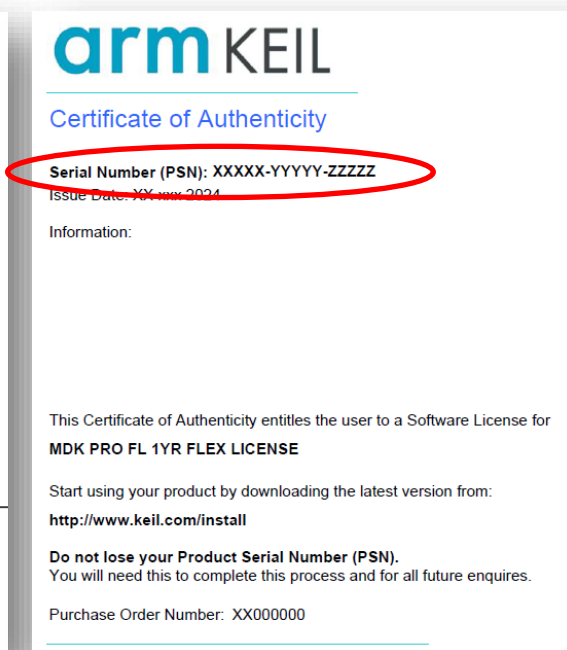


図2. Certificate of Authenticity

保守契約更新を行ったお客様は、「Arm ソフトウェア 保守に関する基本条件書」に対象の PSN が記載されております。

保守更新時に PSN の変更がない場合に限り [ライセンスの Renewal](#) 操作が必要になります。

3. 推奨するシステム構成

Keil 開発ツールの機能を正しくご使用いただくため、以下 URL 内 System Requirement に記載されたコンピュータ要件を必要とします：

<https://developer.arm.com/Tools%20and%20Software/Keil%20MDK#Editions>

注意

- ・ 上記に記載されているプラットフォーム以外でのご利用は、正規のサポート対象外となり、お客様の責任の下でご利用いただく必要があることを、予めご理解・ご承知おきください。
-

4. ライセンスの種類

MDK はライセンスの種類によってライセンシング方法が異なります。ライセンスの種類は以下の通りです。

■ Single-User License

特定の PC でソフトウェア開発ツールを利用される場合のライセンスです。以下 2 種類のタイプがあります。

● Node-locked License

- USB ドングルキーを使用しません。
- 1 ユーザが 2 台までの固有 PC で MDK を使用可能です。
- 年間 3 回まで、PC を変更 (LIC のアンインストール) することが可能です。
- このタイプのライセンシングは別紙『[はじめにお読みください～Single / Floating-User License 版](#)』をご参照ください(本ドキュメントでは説明がありません)。

● Dongle License

- 付属の USB ドングルキーと共に使用します。
- 最大 10 台の PC に LIC をインストールして MDK を使用可能です。
※ただし、動作させることができるのは USB ドングルキーを挿した 1 台の PC でのみ
- 年間 15 回まで、PC を変更 (LIC のアンインストール) することが可能です。
- このタイプのライセンシングは別紙『[はじめにお読みください～Single / Floating-User License 版](#)』をご参照ください(本ドキュメントでは説明がありません)。

■ Floating License

ネットワークを介して任意のマシンでソフトウェア開発ツールを実行するためのライセンスです。ライセンスサーバの管理の下、購入したライセンス数までのユーザが同時にソフトウェア開発ツールを利用できます。以下 2 種類のタイプがあります。

● Floating-User License

- ファイルベースのライセンス管理です。
- Keil Web サイトへアクセスし、ライセンス ID コード (LIC) を取得後、製品をアクティブにして使用します。
- プロダクトを使用する前に、管理者権限でフローティング・ライセンス・ファイル (*.FLF) を作成する必要があります。FLF ファイルをネットワークドライブに置き、参照する形式です。
- ワークステーションで最初のライセンスが有効になった後、*.FLF を別のフォルダへ移動することはできません。
*.FLF ファイルを別の場所へ移動する必要がある場合は、[当社サポート部門](#)までお問い合わせください。
- このタイプのライセンシングは別紙『[はじめにお読みください～Single / Floating-User License 版](#)』をご参照ください(本ドキュメントでは説明がありません)。

- **FlexLM Floating License**

- FLEXnet サーバソフトウェアをライセンスサーバ PC にインストールし、ライセンスサーバを起動しておく必要があります。
- LIC を取得する必要がありません。
- Arm Web サイトにより、ライセンスファイル(*.dat あるいは *.lic)を取得します。
- ライセンスサーバはシングルとリダントの 2 種類の構成を取る事が可能です。
- 保守期間に依存せず、ライセンスサーバ PC の変更(リホスト)が無制限に可能です。リホストを行いたい場合、Arm Web サイト経由で操作可能です。

- FlexLM フローティング・ライセンスは、すべてのプロダクトグループへの他のライセンスより優先されます。
- 例えば、uVision の License Management ウィンドウで"Single-User License" タブから MDK-Arm Professional の Product License を登録し、その後同ウィンドウ内の"FlexNet License" タブから MDK-Arm Plus(Flex) の Product License を登録した場合、Single-User License タイプの MDK-Arm Professional エディションライセンスはグレーアウトされて無効となり、FlexLM フローティング・ライセンスとして登録された MDK-Arm Standard エディションのライセンスが有効となります。"FlexNet License" タブ内の"Use FlexNet" のチェックを外すと、再び Single-User License タイプの MDK-Arm Professional エディションのライセンスが有効になります。

- **User-based Licensing**

UBL のライセンスは、ライセンスサーバを使って運用します。

CLS(Arm のサーバをクラウド利用)と LLS(お客様にてサーバをご用意)の2つの方法があります。

- このタイプのライセンシングは弊社 FAQ の『[ライセンス発行に関して](#)』の Arm 純正ソフトウェアツール User Based Licensing をご参照ください(本ドキュメントでは説明がありません)。

5. Hostid を確認

FlexLM フローティング・ライセンスのライセンシングには、登録したい製品の [PSN](#) とライセンスサーバマシンの Hostid が必要となります。

FLEXnet サーバソフトウェアをインストールしていない場合、以下の標準のオペレーティングシステムコマンドを使用して正しい Hostid を取得することができます：

表 1. 標準のオペレーティングシステムコマンド

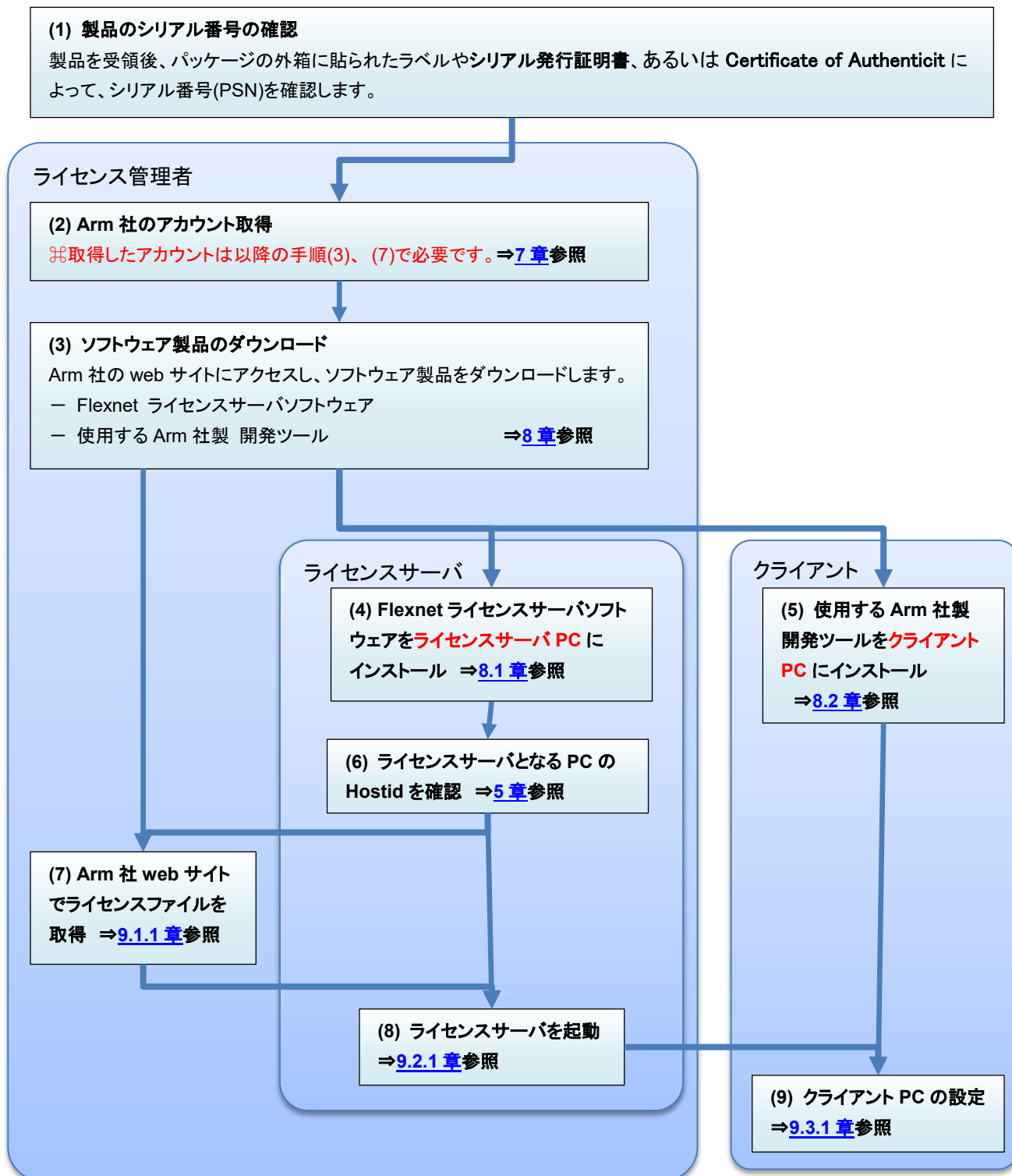
OS	Command	Server Hostid Type	コメント
Windows	<code>ipconfig /all</code>	ETHERNET	Hostid は 12 桁の 16 進で 'Physical Address' として返されます。エントリ前にハイフン '-' を除いてください
Linux	<code>/sbin/ifconfig/eth0</code>	ETHERNET	Hostid は 12 桁の 16 進 'HWaddr' として返されます。コロンを削除してください

- ※ 3 サーバ(リダンダントサーバ)ライセンスの請求をする場合、3 台のマシンすべてに対して正しく、かつ、異なった Hostid が必要になります。
- ※ Windows ライセンスサーバでは Hostid としてボリュームシリアル番号を使用することはできません。

既に FLEXnet サーバソフトウェアをご使用のマシンにインストールしている場合には、"**lmutil lmhostid**" コマンドを使用して Hostid を取得することもできます。

6. ライセンスインストールまでの流れ

この章は、お客様が製品のシリアル番号を入手されてから、PC へライセンスをインストールするまでの大まかなフローを説明します。詳細な操作手順は以降の各章をご参照ください。



7. Arm 社のアカウント取得

Arm 社は FLEXnet サーバソフトウェアを Arm Web サイト上にて提供しております。
ソフトウェアのダウンロードや FLEX 版ライセンスを取得するためには、事前に **Arm Developer サイトのアカウントを取得し、そのアカウントを利用してログインする必要があります**がございました。

アカウントの取得は以下の URL にアクセスし、右上隅にある人型のアイコンをクリックすると表示されるページで "Register" を選択することで開かれる登録ページから無償で行っていただけます：

<https://developer.arm.com/>

注意

上記アカウントをライセンス取得に使用される場合、取得したライセンスは、登録時のアカウントでのみ管理されます。

ご登録担当の方が長期不在になられる、あるいは数年ごとに担当者が変更となる場合は、担当者の方が引き継ぎを行われる際にアカウント変更を行っていただくか、事前にグループで alias のメールアドレスを作成いただき、そのアカウントで Arm Developer サイトのアカウントを取得して、ご利用いただくことをお願いしております。

Arm 社は、ライセンスご登録時に将来的にお客様の部署等で管理可能なアカウントに設定されることをお勧めいたします。

アカウント登録に関する FAQ もご用意しております：

[Arm の web サイト developer.arm.com のアカウント登録について知りたい](#)

8. ソフトウェアのダウンロードとインストール

8.1. FLEXnet サーバソフトウェアのインストール

FlexLM フローティング・ライセンスによってライセンス管理された Arm 製品を使用するためには、FLEXnet サーバソフトウェアをライセンスサーバにインストールし、ライセンスサーバを起動しておく必要があります。

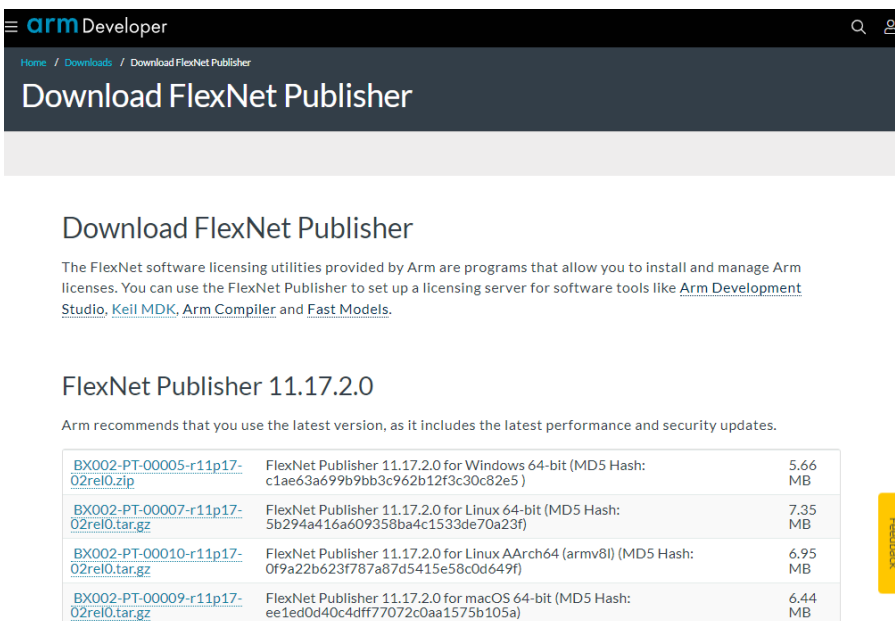
FLEXnet サーバソフトウェアは、以下 Web サイトへアクセスしダウンロードしてお使いください：

<https://developer.arm.com/tools-and-software/software-development-tools/license-management/downloads>

※ 上記サイトから パッケージをダウンロードするには、事前にログインが必要です。

⇒ 「[Arm 社のアカウント取得](#)」をご参照ください。

- ① 最新バージョンの一覧からご使用になれるライセンスサーバの OS に対応する FlexNet Publisher の圧縮ファイル名をクリックしてダウンロードしてください。



The screenshot shows the 'Download FlexNet Publisher' page on the ARM Developer website. The page title is 'Download FlexNet Publisher'. Below the title, there is a description: 'The FlexNet software licensing utilities provided by Arm are programs that allow you to install and manage Arm licenses. You can use the FlexNet Publisher to set up a licensing server for software tools like Arm Development Studio, Keil MDK, Arm Compiler and Fast Models.' Below this, the version 'FlexNet Publisher 11.17.2.0' is mentioned, with a note: 'Arm recommends that you use the latest version, as it includes the latest performance and security updates.' A table lists four download options:

BX002-PT-00005-r11p17-02rel0.zip	FlexNet Publisher 11.17.2.0 for Windows 64-bit (MD5 Hash: c1ae63a699b9bb3c962b12f3c30c82e5)	5.66 MB
BX002-PT-00007-r11p17-02rel0.tar.gz	FlexNet Publisher 11.17.2.0 for Linux 64-bit (MD5 Hash: 5b294a416a609358ba4c1533de70a23f)	7.35 MB
BX002-PT-00010-r11p17-02rel0.tar.gz	FlexNet Publisher 11.17.2.0 for Linux AArch64 (armv8l) (MD5 Hash: 0f9a22b623f787a87d5415e58c0d649f)	6.95 MB
BX002-PT-00009-r11p17-02rel0.tar.gz	FlexNet Publisher 11.17.2.0 for macOS 64-bit (MD5 Hash: ee1ed0d40c4dff77072c0aa1575b105a)	6.44 MB

図 3. FLEXnet Publisher

- ② FLEXnet Publisher のダウンロードが完了したら、任意のフォルダにファイルを解凍してください。
- ③ 以下に、FLEXnet サーバソフトウェアのインストール方法を説明します。

Windows サーバの場合

サーバマシンの C:\FlexNet というディレクトリに、解凍して取り出した Flexnet Publisher のすべてのファイルをコピーした後、C:\FlexNet を PATH の環境変数に加えてください。

- ・ armlmd - Arm ベンダーデーモン
- ・ lmgrd - FlexNet サーバデーモン
- ・ lmutil - FlexNet ライセンスユーティリティ

- ・ lmttools.exe – FlexNet ライセンスユーティリティのグラフィカルユーザインターフェイス
- ・ armlmdiag.exe – Arm ライセンスマネージャー診断ユーティリティ

Linux サーバの場合

ライセンスサーバマシンで makelinks.sh のあるディレクトリに移り、以下のように入力します。

```
sh ./makelinks.sh
```

8.2. MDK-Arm のインストール

Keil 開発ツールは、その出荷物にインストール CD を含みません。

ソフトウェアツールのインストールは、以下 Web サイトへアクセスしダウンロードしてお使いください：

<https://www.keil.com/demo/eval/arm.htm>

※ 上記サイトには、『Evaluation Kit』（評価版）の記述がありますが、正式版と同等の製品をダウンロードできます。

- ① お客様情報(太字のフィールドは必須項目)を入力し、“Submit”のボタンをクリックすると、最新バージョンをダウンロードすることが可能です。クライアント PC へダウンロードしてください。
- ② ソフトウェアのダウンロードが完了したらファイルをダブルクリックし、コンピュータの管理者権限を持つアカウントで、インストーラの指示に従ってルートディレクトリにソフトウェアをインストールしてください。

注意

ソフトウェアはデフォルトでルートディレクトリにインストールされます。ルートディレクトリにインストールすることで、製品に含まれるサンプルを正しく動作させることができます。

製品のアップデート

製品のアップデートは、以下 Keil の Web サイトで公開されます：

<http://www.keil.com/update>

アップデートを行う場合、PC へインストールされた既存のバージョンを必ずしもアンインストールする必要はありませんが、既存のバージョンのインストールフォルダにそのまま書きするのではなく、アップデート後の製品は別のフォルダに新しくインストールいただくことをお勧めします。

※既存のバージョンをアンインストールせず既存のバージョンとは全く異なるフォルダに新しい MDK-Arm をインストールすることで、複数のバージョンを共存させることができます。

- ・ お客様情報をご登録いただく際、“Send me e-mail...”のチェックボックスをチェックすると、ダウンロード可能なアップデートが公開された際に情報を E-mail で受け取ることができます。

製品のダウングレード

旧バージョンのツールのダウンロードについては、

[MDK-Arm の旧バージョンのダウンロードについて](#)をご覧ください。

9. ソフトウェアのライセンスング

FlexLM フローティング・ライセンスは、ライセンス管理者(サーバマシン側)とライセンスユーザ(クライアントマシン側)で各々ライセンスング作業が必要です。

9.1 フローティング・ライセンスの管理者が行う作業

以下手順に従い、サーバマシンへライセンスをセットアップします。

1. [ライセンスファイルを取得](#)
2. [ライセンスの Renewal](#) (保守契約更新後シリアル番号が変更されない場合にのみ行う作業)
3. [ライセンスファイルを修正](#)
4. [ライセンスサーバーを起動](#)
5. [ライセンスサーバーをシャットダウン](#)

9.1.1. ライセンスファイルを取得

1. 以下 ArmSoftware Licensing Portal 内ライセンスファイルの生成ページへアクセスしてください。

<https://developer.arm.com/support/licensing/generate>

※ 上記サイトへアクセスするには、事前にログインが必要です。

⇒ 「[Arm 社のアカウント取得](#)」をご参照ください。

2. Enter Serial Number に登録したい製品のシリアルナンバー(PSN)を入力し、[Create License] をクリックしてください。

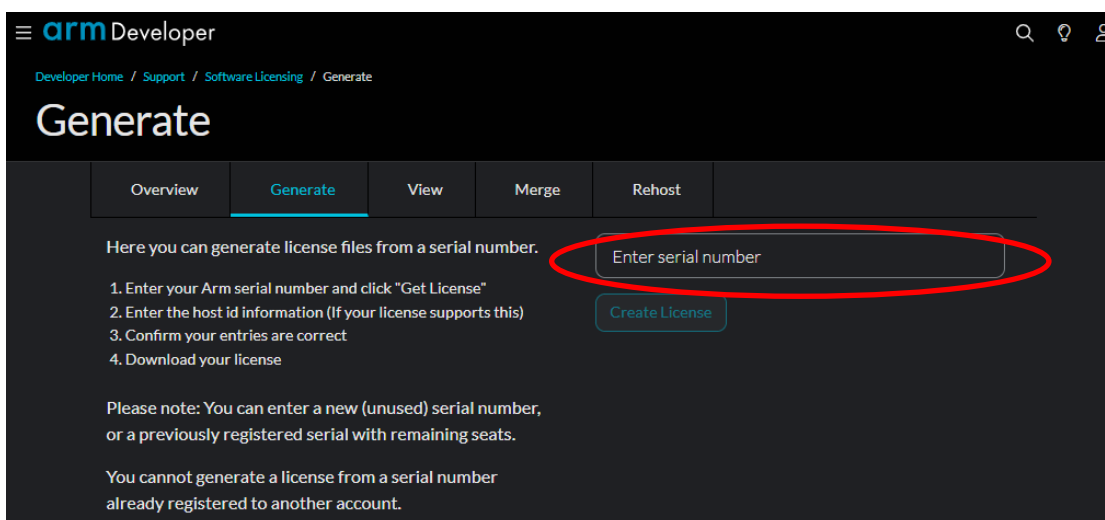


図 4. Generate License 画面

3. 左側に表示される Product 名と License Type を確認後、右側の Enter a Host id に、Hostid に有効な Hostid を入力し、[Generate] ボタンをクリックしてください。

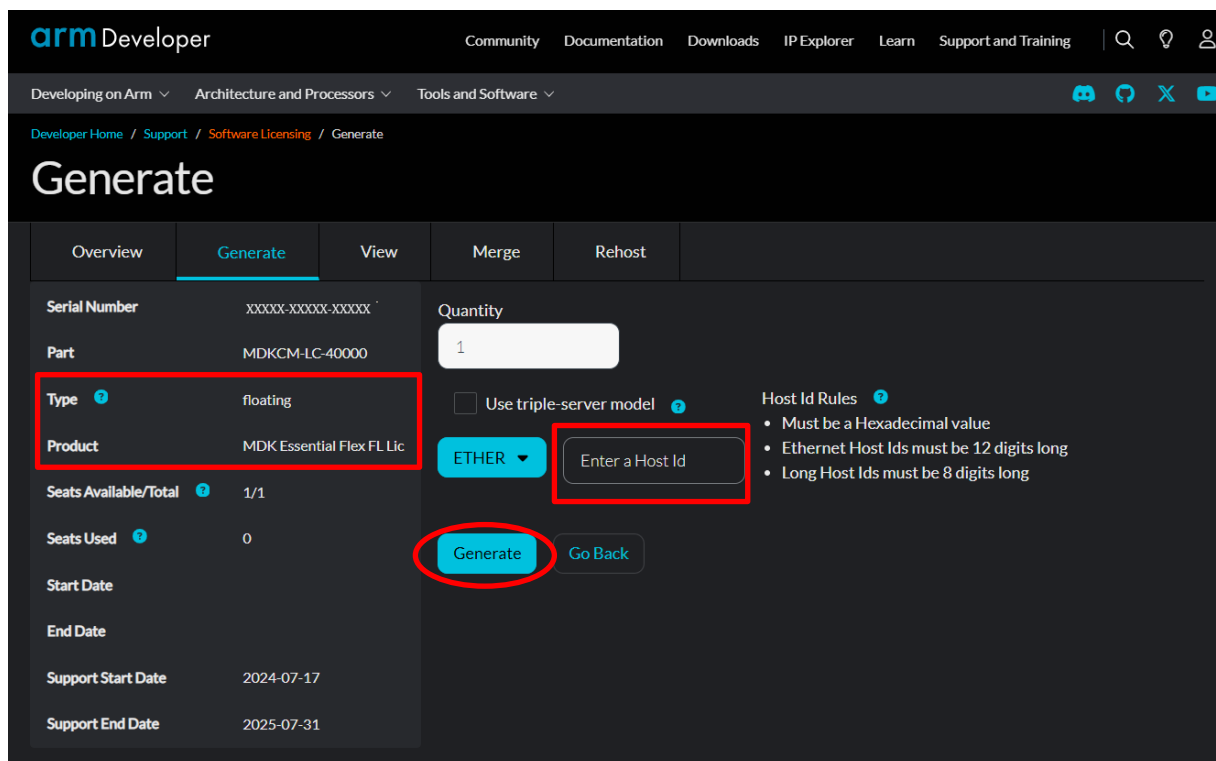


図 5. Hostid 入力

4. 入力した Hostid が表示されますので、再度入力情報を確認し[Confirm] ボタンをクリックしてライセンスを発行してください。
※ もし誤った Hostid で登録されるとリホスト手続きが必要になり、数日を要することがあります。[Confirm] ボタンをクリックする前に、再度ご確認ください。間違っていた場合は[Go Back]ボタンで Hostid の入力画面に戻ることができます。
5. [Download License] ボタンをクリックすると、ライセンスファイルがポップアップしたウィンドウに表示されます。ウィンドウ上の[Download] ボタンをクリックしてライセンスファイルを任意の場所へ保存してください。

9.1.2. ライセンス Renewal

お客様のアカウントにより新規ライセンス取得を行われた場合には、ライセンス Renewal もライセンス取得時のお客様アカウントを使用して実施いただけます。

Renewal 操作は、保守更新時にシリアル番号の変更が行われない場合にのみ必要となる作業です。

[2022 年 08 月以降本操作は基本的に不要となっています。](#)

1. 該当ライセンス新規取得時と同じアカウントを使用し、以下 Arm Web サイトへログインしてください：
<https://developer.arm.com/>
2. 以下の URL にアクセスして Serial Number: に Renewal したい製品のシリアルナンバーを入力し、[Get License]をクリックしてください。
<https://developer.arm.com/support/licensing/generate>
3. 表示される Product 名と Support Start /End Date を確認後、[Renew]ボタンをクリックしてください。

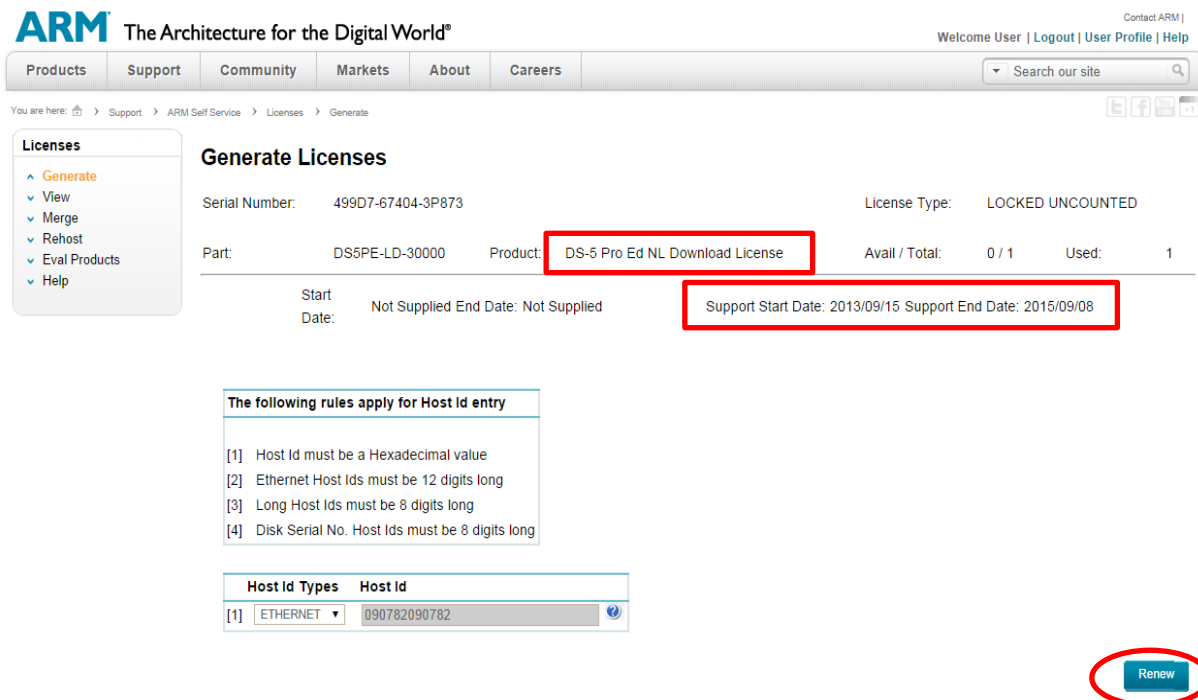


図 6. Renewal 画面

4. [VIEW] ボタンをクリックすると、ライセンスファイルが新しいウィンドウに表示されます。画面右上の[Save] ボタンをクリックしてライセンスファイルを任意の場所へ保存してください。

この後、[ライセンスファイルを修正](#) の内容に従ってライセンスサーバの環境に合わせた修正を行ってください。

9.1.3. ライセンスファイルを修正

SERVER 行の修正

Arm Web ポータルサイトから取得したライセンスファイルの SERVER 行は、デフォルトで以下の記述となっております。

```
SERVER this_host 123456789ABC (登録したHostid)
```

上記 SERVER 行を以下のように、お客様の環境に合わせて変更してください。

- ・ this_host 部分は基本的にそのままでも構いませんが、ネットワーク環境によって明示的に指定が必要となる場合はライセンスサーバマシンのホスト名またはIPアドレスへ変更してください。
- ・ Hostid の後に、ご使用になられるTCPポート番号を追記してください。

例) hostname : 10.20.123.456
Hostid : 123456789ABC(変更しません)
ポート番号 : 8224
上記の場合、SERVER行は以下のように修正します:
SERVER 10.20.123.456 123456789ABC 8224

※hostnameの箇所はライセンスサーバ名でも構いません。

- [ライセンスファイルに関する FAQ はこちらをご参照ください](#)
 - ・ [hostname について詳しく教えてください](#)
 - ・ [FLEXlm が使用するポート番号を固定できますか](#)

複数ライセンスのマージ

Arm Web システム上でマージする場合

同一アカウントで登録された 同一 Hostid のライセンスは、Arm Web システム上でマージすることが可能です。ライセンスのマージ方法は以下手順に従ってください。

1. 以下 Arm_Web ライセンスのポータルサイトへアクセスしてください。
<https://developer.arm.com/support/licensing/merge>
 - ※ 上記サイトへアクセスするには、事前にログインが必要です。
⇒ 「[Arm 社のアカウント取得](#)」をご参照ください。
- ・ ライセンス登録後マージ作業を引き続き行う場合は、再ログイン不要です。

- Enter a Host Id と表示されたフィールドへマージしたいライセンスサーバの Hostid を入力し、[Search] ボタンをクリックしてください。(図 7)

※ 同一 Hostid へ登録済みのライセンスが多数(10 本以上)ある場合、ライセンスがすべて表示されるよう表示行数を"10 rows"と表示されているプルダウンメニューから選択し、1 ページにすべてのライセンスが表示されるようにしてください。表示ページが異なるライセンスは、一度にマージできません。

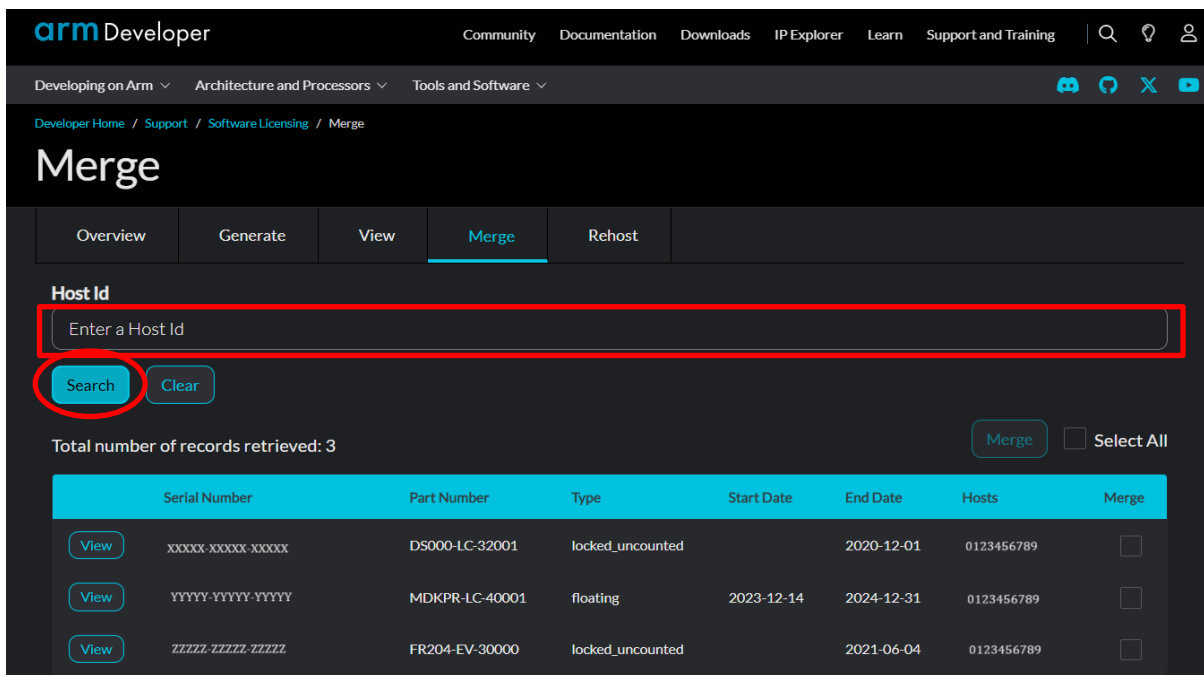


図 7. Hostid 入力

- マージしたいライセンスのチェックボックスにチェックし、[Merge] ボタンをクリックします。(図 8)

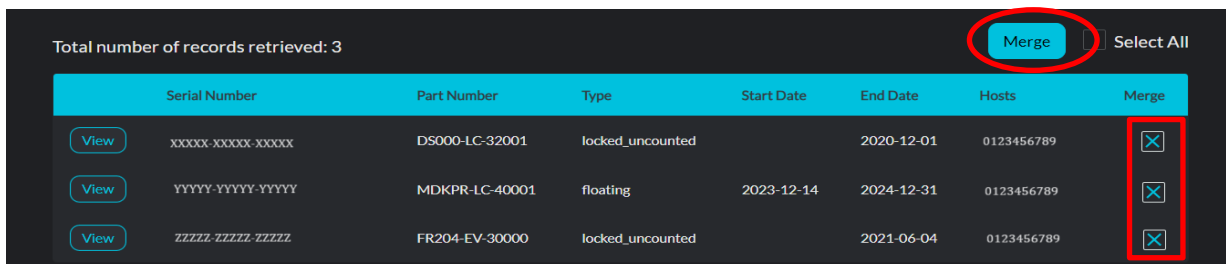


図 8. マージしたいライセンスをチェック

- Merged License Contents ウィンドウが表示されるので[Download] ボタンをクリックし、ライセンスファイルを任意のフォルダへ保存してください。

手動でマージする場合

以下の場合、Arm Web システムでライセンスのマージを行うことができませんので、手動で行います。

- ライセンス登録時のアカウントが異なる場合
- Arm Web システム上で、マージしたいライセンスが検出されない場合

- 上記の場合以下 FAQ を参照し、手動でライセンスをマージしてください。
- ・ [フローティングライセンスのマージ方法について](#)

9.2. フローティング・ライセンスサーバで行う作業

9.2.1. ライセンスサーバを起動

ライセンスサーバを起動する方法は、使用するプラットフォームによって異なります。

Windows の場合

1. ライセンスサーバPCにインストールしたフォルダ(例:C:\FlexNet)にある lmtools.exe を管理者権限で起動します。
2. Service/License File タブ内の “Configuration using Services” オプションを選択してください。
 - ・ このとき、下段の枠内に “FLEXlm Service 1” と表示されているか確認して下さい。
 - ・ 表示がない場合は、手順 “3” に進んでください。
 - ・ 表示がある場合は、手順 “4” に進んでください。

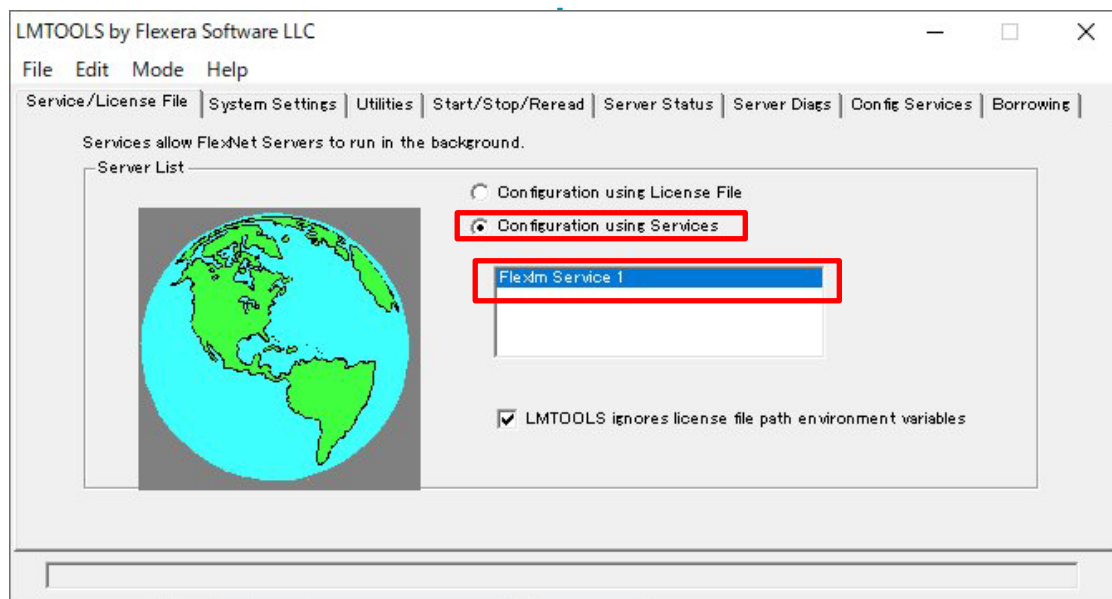


図 9. lmtools.exe

3. Configure Services タブを選択し、“Service Name” 欄に “FLEXlm Service 1” を入力して下さい。
4. Configure Services タブを選択し、下記フィールドにそれぞれ、要求されるファイルのパス名を入力するか、Browse ボタンでファイルを選択してください。
 - ・ Path to the lmgrd.exe file.....lmgrd.exe
 - ・ Path to the license file.....ライセンスファイル
 - ・ Path to the debug log file.....ログファイル(これはサーバの動作を記録として残すファイルです。障害発生時の解析の為に指定することを推奨します。)

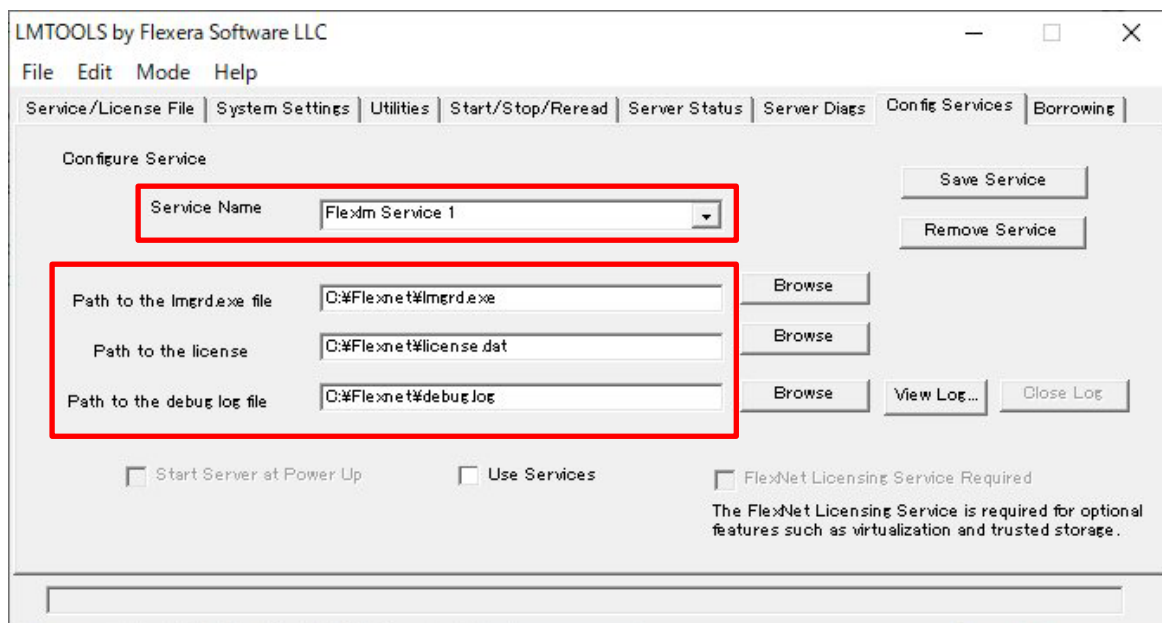


図 10. Config Services タブ

1. サーバPCの起動時に自動的にサーバソフトウェアを実行させたい場合は、"Use Services" チェックボックスをクリックし、次に"Start Server at Power Up" チェックボックスをクリックしてください。
2. "Save Service" ボタンをクリックしてください。
3. 確認のウィンドウが表示されたら、"はい"を選択して[FLEXIm License Manager] サービスの保存を確定します。
4. Start/Stop/Reread タブをクリックし、[FLEXIm License Manager] サービスが選択されていることを確認し、"Start Service" ボタンをクリックしてください。これでライセンスサーバデーモンが起動されます。

Linux の場合

1. ライセンスサーバ・デーモン(lmgrd.exe)が含まれるディレクトリに移動して、以下のコマンドを入力してください。

```
nohup lmgrd -c license_file_name -l logfile_name &
```

license_file_name ライセンスファイルのパス名
logfile_name ログファイルのパス名
2. ライセンスサーバの起動後は、以下を入力することによってライセンスサーバからの最新出力を表示させることができます。

```
tail -f logfile_name
```


9.2.2. ライセンスサーバをシャットダウン

新しいライセンスファイルを使用したり、ライセンスファイルにオプションファイル登録を追加するために変更する場合、ライセンスサーバ・デーモンのシャットダウンが必要です。ライセンスサーバ・デーモンのシャットダウン方法は、使用しているプラットフォームによって異なります。

※ Windows ではタスクマネージャ、Unix/Linux では `kill -9` コマンドを使用して、ライセンスサーバ・デーモンを終了しないで下さい。プロセスが正常に終了しないことがあり、サーバの再起動時に問題が発生する可能性があります。サーバを強制的にシャットダウンする必要がある場合には、必ず `Imgrd` を停止してから `armlmd` を停止します。

Windows サーバの停止

グラフィカルユーザインタフェースを使用して、Windowsライセンスサーバを停止するには、次の手順に従います。

1. サーバマシンの `C:\FlexNet` にある `Imtools.exe` を起動します
2. Start/Stop/Reread タブをクリックします。
3. “Stop Server” ボタンをクリックして、ライセンスサーバをシャットダウンします。
4. サーバログを使用している場合は、ログにサーバがシャットダウンしたことが記録されます。
 - ※ グラフィカルユーザインタフェースではなくコマンドラインを使用する場合は、「Unix/Linux サーバの停止」の指示を参照して下さい。

Unix/Linux サーバ PC 上での停止

Unix/Linux ライセンスサーバ・デーモンを停止するには、FLEXnetサーバソフトウェアをインストールしたディレクトリに移動します。コマンドプロンプトで次のように入力します。

`Imutil lmdown -q -c license_file_name`

- `license_file_name` : サーバの起動に使用したライセンスファイルの完全修飾パス名を指定
-

3 台(リダンダント)のライセンスサーバの停止

3 台のライセンスサーバ使用している(リダンダント・ライセンスサーバの場合、以下いずれかを使用してサーバをシャットダウンすると、指定されたライセンスファイルに列挙されたサーバすべてが、1 分経過後にシャットダウンされます。

`Imtools.exe` GUI または、コマンドライン上での `Imutil lmdown`

9.3. フローティング・ライセンスユーザが行う作業

9.3.1. クライアント PC の設定

1. μ Vision を管理者権限で起動し、File->License Management を選択して、[License Management]ダイアログボックスを開いてください。

2. FlexLM License タブをクリックした後、“Edit”ボタンをクリックします。

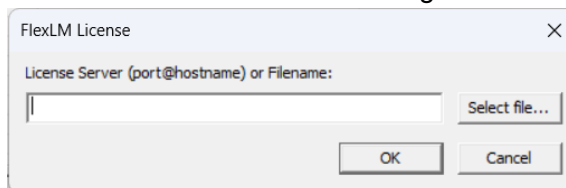


図 11. FlexLM License ポップアップウィンドウ

3. 図 11 のポップアップウィンドウが表示されますので、“ライセンスサーバの使用するポート番号@ライセンスサーバマシンのホスト名または IP アドレス”を入力し“OK”ボタンをクリックします。

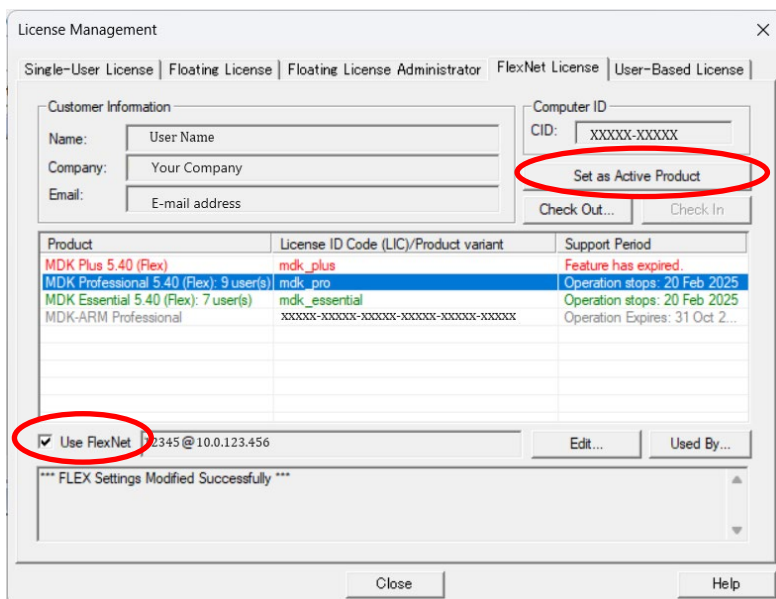


図 12. FlexLM License Management

4. “Use Flex Sever”チェックボックスをチェックします。すべての利用可能なプロダクトライセンスがダイアログに表示されます。
5. ライセンステーブル内のプロダクトをクリックし、ライセンスを行使するため “Set as Active Product” をクリックします。これでライセンス登録は完了です。

- Green record: ワークステーションで現在アクティブな FlexLM ライセンスを示します。
- Red records: 使用不可なライセンスを示します。
- Black records: 利用可能なライセンスを示します。
- Gray records: ローカルにインストールされたライセンスを示します。

※ライセンスを無効にするには、“Use Flex Sever”チェックボックスのチェックを外しディセーブルしてください。

10. ライセンスのホストマシン変更(リホスト)

お客様アカウントによって新規ライセンス取得された場合は、リホストもお客様ご自身で行っていただけます。

※ お客様のアカウントにより取得されたライセンスは、当社ではリホストできませんので予めご了承ください。

※ Arm Web システム上でライセンスのリホストを行う場合、サイトへのアクセスには対象ライセンスを取得した際と同一のアカウントによるログインが必要です。

以下手順に従い、リホストを行います：

1. お客様アカウントにより、以下サイトへアクセスしてください。

<https://developer.arm.com/support/licensing/rehost>

2. Rehost License Request(Disclaimer) 画面が表示されるので、[I Accept] ボタンをクリックしてください。

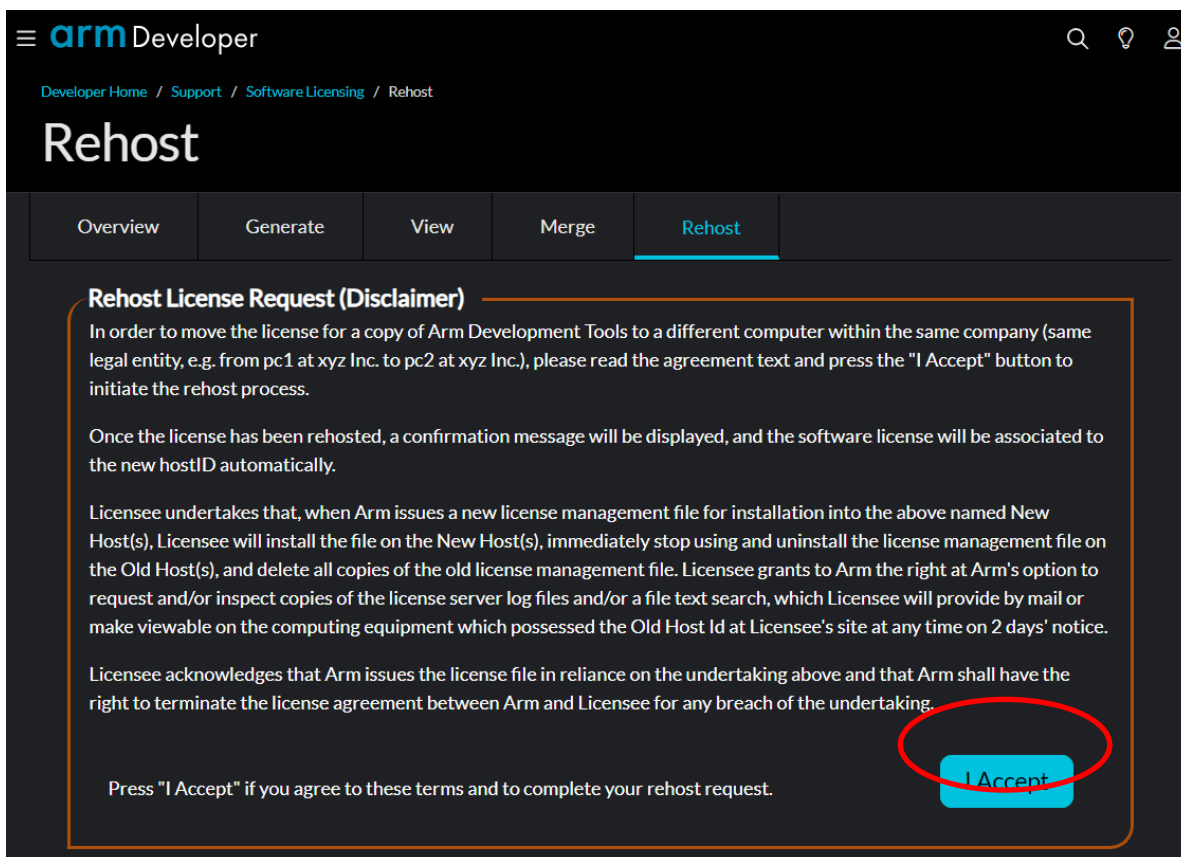


図 13. Rehost License Request (Disclaimer) 画面

3. Enter a Serial Number と表示されたフィールドへリホストしたいライセンスサーバの Serial Number 、もしくは Enter a Host Id と表示されたフィールドへリホストしたいライセンスサーバの Hostid を入力し[Search] ボタンをクリックしてください。
- ※ Hostid を入力される場合は、リホスト元となるサーバの Hostid を入力してください。

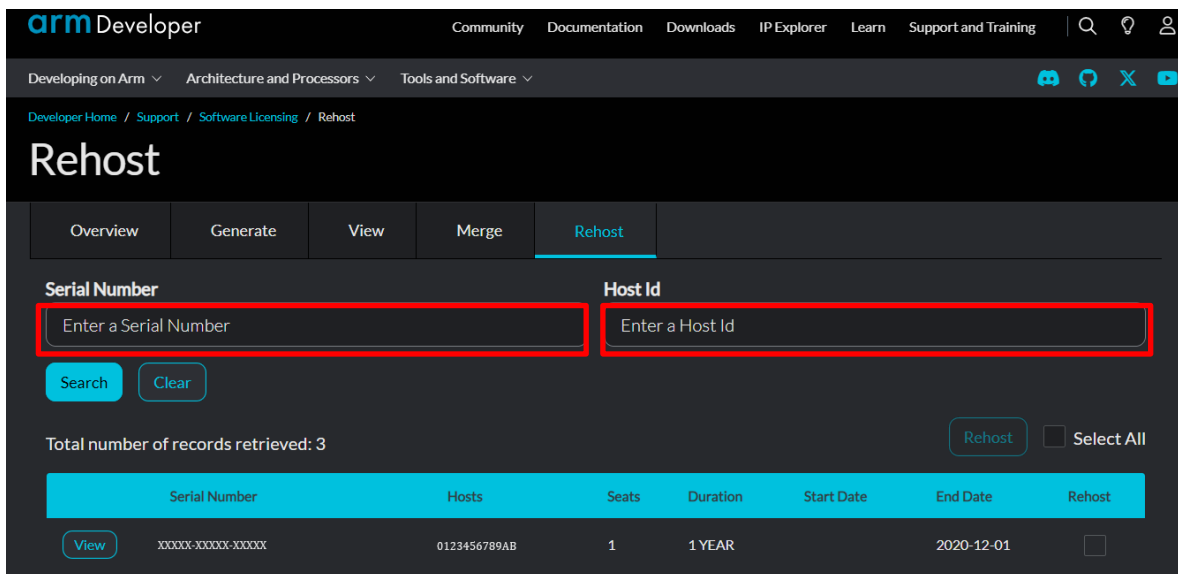


図 14. Serial Number もしくは Hostid 入力

4. 表示されたシリアル番号のうち、リホストしたいものの右端にあるチェックボックスにチェックを入れ、[Rehost] ボタンをクリックしてください。

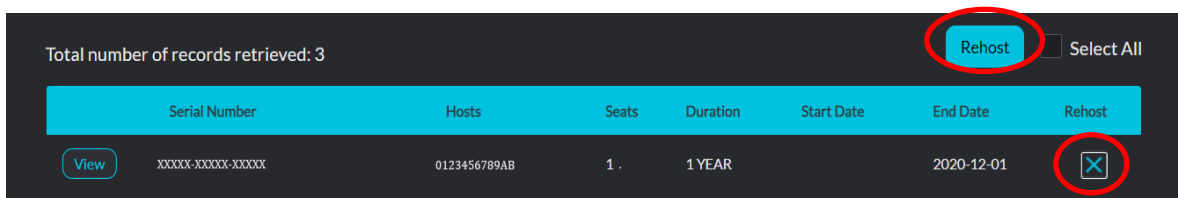


図 15. リホストしたいライセンスをチェック

5. Enter your reason for rehosting と書かれたウィンドウが開きますので、最上部のドロップダウンリストに表示される項目から、理由を選択します。
続いて、左側のドロップダウンリストが[ETHER]になっていることを確認し、Enter a Host Id の欄にリホスト先となる新しい hostid を入力した後、[Rehost] ボタンをクリックしてください。

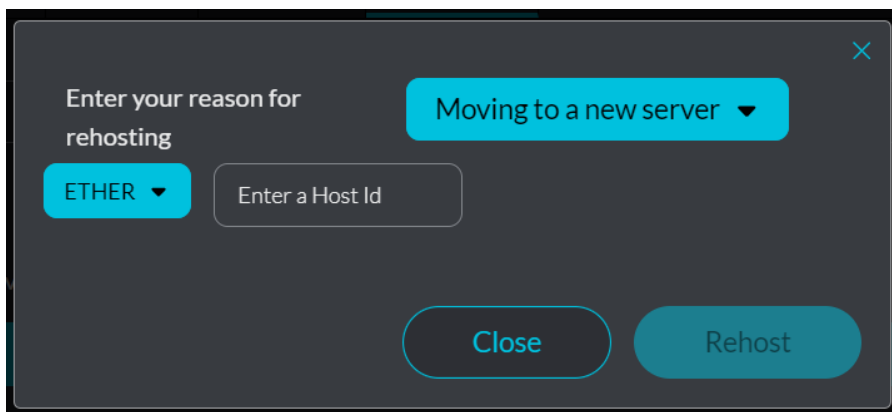


図 16. Enter your reason for rehosting ウィンドウ

右上のドロップダウンリストで選択可能なリホスト理由には以下があります。適切なものを選択してください。

- ・ Moving to a new server : ライセンスサーバの変更
- ・ Moving to a new workstation : ノードロックライセンス時のクライアント PC の変更
- ・ Mistyped the host identifier (s) : Hostid の誤入力
- ・ Other : それ以外

6. Your rehost request was automatically approved and processed. または
Your license has now been updated. You can find this here と表示されたらリホストは完了です。

<https://developer.arm.com/support/licensing/view>

等のメニューからリホスト済みのあたらしいライセンスファイルを手入力いただけます。

※ ホストマシン変更(リホスト)に伴い、古いライセンスファイルは必ず破棄をお願い致します。

11. MDK-Arm のアンインストール

MDK-Arm をアンインストールする場合、インストールフォルダ内にある Uninstall.exe を実行します。

例 : C:\Keil_v5\Uninstall.exe

- ※ コントロール・パネルの「プログラムの追加と削除」でも同様にアンインストール可能です。
- ※ Uninstall.exe あるいは「プログラムの追加と削除」からアンインストールの実行後、インストールフォルダの内容が一部残ることがあります。フォルダの内容を確認の上、手動で消去してください。

12. よくある質問 トラブルシューティング

- ◆ 弊社では以下 web ページにてライセンスを含む様々な FAQ を提供しています。
[DTS インサイト Arm サポート FAQ](#)

13. 当社サポート対応

当社では E-mail による技術サポートをご提供いたします。お問い合わせの際は迅速な対応を目的とするため、下記の必須情報を必ずご連絡くださいますようお願い申し上げます。

1. お客様氏名
 2. 会社名および部署名:
 3. お電話番号:
 4. 対象製品名およびバージョン:
 5. 対象製品シリアルナンバー:
- サポート申し込み時の必要情報等についての詳細は以下 FAQ をご参照ください
- ・ [Arm 製品の技術的なお問い合わせの際の必要事項について](#)
- サポート対応時間帯 : 平日(月～金: 祝祭日および年末年始は除く弊社が定める営業日)
10:00～12:00 13:00～17:00 (メール、FAXの受付は24時間可能です。)
- ◆ 株式会社 DTS インサイト :
<https://www.dts-insight.co.jp/>
- ◆ ライセンス要求、技術的なお問い合わせ (修理含む) :
E-mail : arm_support@dts-insight.co.jp
- ◆ 保守に関するお問い合わせ :
E-mail : arm_sm@dts-insight.co.jp
- ◆ トレーニング (技術セミナー) に関するお問い合わせ :
E-mail : arm_training@dts-insight.co.jp